

巻頭言

健康文化

佐久間 貞行

毎号巻頭を飾って下さった林文子理事長の文章にお目にかかれないのは、こころ寂しい極みである。病床で、最後まで本誌のことを心に懸けて案じておられた。林誠太新理事長のもと、林先生の御遺志と御遺託に沿って編集と発行を続けて行きたいものと思う。

「健康文化」と言うタイトルについて、「健康は文化」と思う人もいるであろうし、「健康と文化」と考える人もいるであろう。更に「健康に関する文化活動」と受け取る方もおられるであろう。林先生の考えは広い範囲を包含するものであった。また林先生はこの「健康文化」という語が大変気に入っておられた。雑誌の題名も「健康文化」としようとしたのであるが、既に書名として登録されていた。そこで窮余の一策としてそのあとに振興財団紀要を付したのである。

表紙の「藤色」について、編集担当者が先ず選んだのであるが、林先生はこの色合いがお好きであった。毎号同じ色に仕上がるように気を配っておられた。藤色の感じは「高貴」であり、また林先生が卒業された県立津島高女の校色であったようである。

おわりに、これまで通り皆様に良い原稿を御寄せ戴き、良い雑誌に仕上げ、続けて行きたいものである。

(財団理事・名古屋大学名誉教授・テルモ研究開発センター長)